

花壇づくりワークショップ ニュースレター

Vol.05

H28年11月16日号



チューリップフェアに向けた 花壇の施工を行いました

来年度のチューリップフェアに向けて、今回と3月の2回に分けて花壇づくりを行います。今回は冬の間も花を咲かせたり、寒さに強い植物を中心に施工を行いました。

日時：平成28年11月16日(水)
9:30~12:15
場所：馬見丘陵公園
(花サポーター花壇)
参加者：25人

◆当日のスケジュール◆

9:30 全体説明、班分け
9:45 既存苗の剪定説明
10:35 苗の配置、植付
12:15 終了



▲植付直後の花壇
▼花壇イメージ図



冬花壇のコンセプト

チューリップフェアに向けて、今回(冬)と春の2回施工を行うことを見越し、植物の性質を考えながら花壇計画を行いました。秋花壇では1、3、5班にだけ設置していたコンテナを全体にレイアウトして、大小交互に並べました。冬花壇は流通している花の種類や寒さに強い種類を勘案して、暖色系の色に全体を統一し、チューリップフェアまで日があるので、植え付けの株間も広めにしました。

皆さんのデザインの中で人気だったのはアネモネ、チューリップでしたので、花壇・コンテナ共にそれらが多く配置されたデザインとなりました。



▲作業前のオリエンテーション



冬越しさせる宿根草は剪定・移設、マルチングを施して寒さ対策

今回の花壇づくりは、秋花壇で使った宿根草の一部を残し、新たな苗と球根を植える計画としました。まず既存の苗の内、宿根草の一部を冬越しできるように剪定を行いました。

(ニュースレターVol.4参照)ご家庭でキク類等の冬越しさせる際にもできる方法なので、皆さん熱心に説明を聞かれました。剪定した宿根草は花壇の後方に寄せて、何も植わっていない部分が目立たないように移動させました。

宿根草の剪定・移植の後は前回と同じようにコンテナ内の植え付けを行った後に花壇の



▲宿根草の剪定の説明



▲地際で切戻す様子



▲剪定後のクジャクアスター

植え付けを行いました。各班、図面を確認する人、苗を並べる人、全体のバランスを確認する人に役割分担が自然と出来ていて、作業がとてもスムーズに進みました。

植え付けが終わってからマルチングとしてバーク堆肥を花壇全体に敷きました。寒さに強い種類の植物を使用してはいますが、花サポーター花壇で冬越しは初めてなので念のために土を保温し根の保護を行いました。

最後に花に水がかからないように、各班丁寧に灌水を行い、秋とは違う表情の花壇が完成しました。



▲苗の配置・植え付け



▲マルチングをした状態



▲仕上げの灌水



球根にチャレンジ！！

今回の新たな試みとして、苗以外にアネモネ、スイセン、チューリップ、ヒヤシンス、ムスカリの球根を植えました。球根には春植え、夏植え、秋植えとありますが、今回植えるのは秋植え球根です。

秋植え球根は気温が15℃前後になる10~11月に植え付け、翌春に花が咲くものをいいます。秋植え球根は寒さに当たることによって芽を出す準備をします。寒さに十分あたらない球根は背丈が伸びず、芽が細くなり、花付きが悪くなる場合もあります。



▲チューリップの球根の植え付け

代表的な球根	
春植え球根	アマリリス、カラー、カンナ、カラジウム、グラジオラス、ダリア、サンダーソニア 等
夏植え球根	オキザリス類、サフラン、コルチカム類、スレツンベルギア、ネリネ、リコリス類 等
秋植え球根	(上記の他に) アリウム類、クロッカス、スイセン類、フリージア、ユリ 等

球根の植え方

秋花壇では全ての植物を苗の状態から植え付けましたが、今回は球根の状態からの植え付けにチャレンジしました。ここでは球根の選び方や植え付けの注意点について紹介します。

どんな球根を買ったらいいの？

園芸店やホームセンターの店頭には沢山の球根が売られていますが、売られている状態がその球根に合った保存状態か、キズやカビがないか確認しましょう。選ぶ目安としては、大きく、重たく、カビや腐敗のないものを選びましょう。屋外の直射日光が当たる場所や湿気が多い場所に陳列されている場合は、発芽率が悪くなっていることがあるので注意しましょう。



▲健康な球根とキズが付いた球根(チューリップ)

球根を買ったら、そのまま植え付けしてもいいの？

基本的には購入した球根はすぐに植えつけた方が良いですが、今回植えたアネモネや、ランキユラス、エランティスなどキンポウゲ科の球根はカラカラに乾燥させて保存しており、急に水分を吸わせると腐りやすいので、水苔やスポンジなどを使ってゆっくりと給水させてから植え付けます。



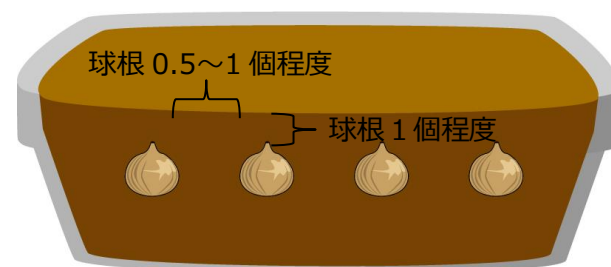
- ①買ったばかりのアネモネの球根はカラカラに乾燥した状態です。
- ②水を含ませた水苔(スポンジでも可)を用意し、その上に球根を並べます。多色ある時は、球根が混ざらないように注意します。
- ③アネモネの球根は尖った方が下向きであることに注意します。判断できない場合は横向きにします。
- ④吸水処理を行って1日経過した状態です。水分を含んで大きくなっています。今回は1週間吸水期間を置いてから植え付けを行いました。

球根を植え付ける間隔は？

今回施工した花壇では、苗と球根を混ぜて植えました。混植する際の注意点は、球根と苗が重なり合わないにします。植える前に全ての球根と花苗を配置して、植える間隔を確認してから植えつけましょう。苗の根元に球根がないように注意します。

球根だけを植える場合、花壇の場合は下表の値を目安にします。コンテナに植えるときは深さが限られ、根が十分に成長できないので、浅植えにします。原則として「球根 0.5～1 個分程度の深さ」を目安とします。植え込む間隔は「球根 1 個分程度の幅」離すようにします。

種類	植え付け間隔	球数	深さ
アネモネ	10×10 cm	100 個/m ²	3～4 cm
クロッカス	7×10 cm	100～150	10 cm
ヒアシンシ	15×15 cm	40～50	10 cm
ムスカリ	6×10 cm	150～200	8～10 cm
チューリップ	13×13 cm	40～60	7～10 cm
スイセン	12×12 cm	40～100	10～15 cm
カンナ	30×30 cm	9	7 cm
ユリ	15×15 cm	—	30 cm



※ユリの球根の場合
ユリは球根の下から出る下根と球根の上に伸びた地下茎から出る上根があり、上根で水分や養分を吸収します。浅植えすると上根の範囲が少なくなるため、コンテナに植える場合でも球根 1 個以上深く植え付けるようにします。

植物につく病虫害対策



▲噴霧器

昨年度植えたシルバープリペットに害虫(ハマキムシとヘリグロテントウノミハムシ)が付き、葉が食べられる被害が出ていました。害虫除去の方法はいろいろありますが、今回は「マラソン乳剤」を1000倍に希釈して噴霧器で散布しました。これらの薬品は容量・用法を必ず守って使用してください。

また、クジャクアスターの一部にうどんこ病が発生していました。うどんこ病はカビが原因で、葉の表面にうどんの粉のような白い斑点ができ、そのうち葉全体が白くなる病気です。今回は地上部を全て切ったため広がりませんでした。放っておくとうどんこ被害が広がってしまいます。

冬は病虫害の発生が少ない時期ですが、3月頃から徐々に増えだすので、病虫害を見つけた場合は早めに対処しましょう。

草花によく見られる病虫害(多く発生する時期)	対処方法
うどんこ病(5月～11月) 新芽、若芽、茎、花梗が白い粉をまぶしたようになり、萎縮したり奇形になります。病原菌は高温低湿度を好みます。	 症状が出ている葉を切り、拡大を防ぎます。それでもおさまらない場合は、食酢や木酢液を3～5倍に希釈するか、重層を500～1000倍に希釈したものを散布します。
黒星病(4月～11月) カビの寄生によって葉に淡褐色または黒しみ状の斑点が生じます。斑点がだんだん大きく広がっていくと、やがて病斑部のまわりから黄色く変色し、葉が落ちてしまいます。	 症状が出ている葉を切り、トップジンMゾルやサブロール乳剤薬剤等を規定量に希釈し散布します。また、病気にかかってしまった落ち葉も、雨の跳ね返り等で伝染するので、株の周りから完全に取り除いてください。
アブラムシ(3月～11月) 若い茎、枝に小さな虫が群がって住みます。種類が多く、あらゆる植物に寄生します。繁殖力が旺盛で、汁を吸ったり、中には葉を巻いたりこぶを作るものもいます。	 数が少ない場合はティッシュなどでふき取るか、水と牛乳を1:1で割ったものを散布して窒息死させ、水で洗い流します。大量発生した場合は、植物に合った殺虫剤を使用してください。
ハマキムシ(3月～11月) 葉を巻いて袋状、あるいは複数の葉を綴り合せてその中に生息します。葉や蕾を食害する、極めて雑食性の高いケムシの仲間です。	 中に幼虫のいる巻かれた葉を見つけたら、被害葉ごと摘み取ります。ハマキムシの幼虫は葉の中で越冬するので、冬の間にはできるだけ駆除しましょう。薬品を使う場合は、植物に合った殺虫剤を使用してください。
ハダニ(3月～11月) クモのように糸を出し、葉裏に多く生息します。葉が白っぽくなって生気を失い、生育が衰えます。キクは特に被害を受けやすいです。乾燥している場所での発生が多いです。	 水に弱く、葉裏をシャワーで洗うと効果的です。アブラムシと同様に水と牛乳を1:1で割ったものを散布して窒息死させ、水で洗い流す方法もあります。薬品を使う場合は、マシン油乳化剤や数種類のダニ用殺虫剤を交互に使いましょう。